

# 第1回企画・モニタリング専門委員会の主なご意見

---

## ■ 第三次国土形成計画のモニタリングについて

### 【全体について】

- ✓ 社会の変化が加速度的に速くなる中、変化は時間的・空間的にまだらに生じており、そうした変化を素早く的確に把握することが必要ではないか。
- ✓ 地域を支えるエッセンシャル産業と外貨獲得産業を分けて考える等、トピックデータとしてモニタリングができないか。
- ✓ 数値の推移をモニタリングするだけでなく、数値にはすぐ表れてこないような動きや施策があることに留意すべき。
- ✓ 国土のモニタリングにより、課題の把握にとどまらず、好機となり得る前向きな要素を見つけられると良いのではないか。
- ✓ モニタリングのアウトプットとして、何を想定しているのかを整理した方が良い。

## ■ 第三次国土形成計画のモニタリングについて

### 【広域的分散について】

- ✓ 海外との関係で日本が買い負けてしまう状況が顕著になってきており、国土の運営にどのような影響を及ぼすのか議論が必要ではないか。
- ✓ 日本のプレゼンスを正しく把握するため、GDP以外の国際比較のデータをモニタリングしていく必要があるのではないか。
- ✓ 外国人労働者の増減状況を示すデータがあると良い。
- ✓ 都市間競争の時代に、世界と日本の主要都市についても比較分析すると良いのではないか。
- ✓ 広域ブロック単位で、公共の財政余力や民間の投資余力を地理的分布として把握することが重要ではないか。
- ✓ 実際の経済活動は隣り合っている地域がつながっているため、地方ブロックごとではなく、実際の経済活動の分布やサプライチェーンの単位で、実態を見る必要があるのではないか。
- ✓ 産業立地政策と国土政策は連動すべきと考えており、地域ごとの産業用地の需給格差などもモニタリング・予測できると良いのではないか。
- ✓ 中枢都市はダム機能というよりポンプ的な役割を果たしているのではないか。中枢都市が広域的な機能分散としての「ダム」として機能しているか、検討すべきではないか。
- ✓ 二地域居住、関係人口、観光滞在人口を含めた、実質的に地域に関わっている人口の動向を加味したインフラ需要予測を行い、指標として見てほしい。

# 第1回企画・モニタリング専門委員会の主なご意見

## ■ 第三次国土形成計画のモニタリングについて

### 【生活圏について】

- ✓ 農村RMOや観光DMOにまつわる指標も参考にすると良いのではないか。
- ✓ 自然資本の関連データはあまり変化なしということだったが、“静かなる危機”に着眼してほしい。
- ✓ (生物多様性がある程度維持可能な) 自然公園ではなく、農地等の人々が利用してきた土地の生物多様性をいかに高めていくか、そのようなデータが加わるとよい。
- ✓ 消防力、地域防災力といった指標を空間情報として可視化できれば、政策立案に非常に役立つ。
- ✓ 国土の管理水準の低下に関して、**特に地方都市における空き地が大きな課題**かと思うので現状を見て欲しい。
- ✓ 各地域の産業が維持できるのか、**開業・廃業状況、スタートアップを含め魅力ある仕事が創出されているか**等、データとして示してほしい。
- ✓ 空き家へのSIB適用、介護分野へのSIB・PFSの活用といった動きは相当浸透してきているので、現状を把握すべき。
- ✓ PFI事業がどういった領域でなじんでいるのか、なじんでいない領域はどういった課題があるのか、見ていくと良いのではないか。
- ✓ 特定技能の外国人が増加する中、地域に貢献するような方が地域に溶け込むことは重要。特定技能外国人やその家族に対する教育・医療・福祉といったサービスの各地域での実態について、一定程度把握することが必要。
- ✓ 地方移住への関心の高まりについて、**実際にどういう移住がなされているのか**実態を押さえて欲しい。
- ✓ 二地域居住について、資源の移転やお金がどのように動いているのかがわかる資料があると良いのではないか。
- ✓ 移住・二地域居住の候補地について、どのような医療・福祉サービスがそろっていることが条件となるのか、逆に何がネックとなるのか等の資料があると良い。
- ✓ **移住のウェルビーイング**に関する内閣府のアンケートがあるので、そういったデータも見るのが良いのではないか。

## ■ 第三次国土形成計画の推進（国土構造の基本構想）について

### 【全体について】

- ✓ 国土形成計画は固定的な一つの将来像を前提にするのではなく、**巨大災害やAI、技術革新といった不確実性に耐えうるもの**であるという意識が重要で、複数のシナリオの可能性を持ち、柔軟に対応することが大切。
- ✓ 脱炭素やエネルギー転換等、産業をどのようにしていくのか長期的に考えるべき。
- ✓ 戦略的な産業がどこに立地していて、今後どこに投資が向かっていくのか国土計画が先取りをしていくことが必要ではないか。
- ✓ 自動運転や介護ロボットの普及等、**社会における技術の転換、変化によって、国土の空間的な価値も変わってくる**ので、そういった部分を考えていく必要があるのではないか。
- ✓ リニア中央新幹線の「日本中央回廊」について、中間地域の人材や資金、知見を接続し、研究や観光産業への民間投資をマッチングさせる等、事前に投資を誘導するような仕組みづくりを検討できないか。

## ■ 第三次国土形成計画の推進（国土構造の基本構想）について

### 【広域的分散について】

- ✓ 昨今の最も大きな社会変化はA Iで、今後、仕事の在り方にも大きな変化が生じることが見込まれ、人口分布にも影響し得るが、誰にも明確な答えがない。
- ✓ 九州や山口、広島、瀬戸内あたりを一体的に圏域として捉える等、ブロックの区切り方も議論できれば良い。
- ✓ 東京の広域的な強靱化という視点で、東京一極集中の是正を考えるべきではないか。
- ✓ 「分散」について、「何のための分散か」という本質的な意義を確認することが不可欠。
- ✓ 環境の変化や利便性の低下によって不本意に「移動」を強いられることは防ぐべき。個人のウェルビーイングの観点からその場所に留まれるようにすることが、「国土の分散」の在り方ではないか。
- ✓ 広域的な分散の実現については、日本以外の国の政策も参考にしたらよいのではないか。
- ✓ 平時のみを想定した分散では非常時に機能しないおそれがあるので、中長期的な対応を検討する必要があるのではないか。

## ■ 第三次国土形成計画の推進（国土構造の基本構想）について

### 【生活圏について】

#### ■ 地域生活圏の形成について

- ✓ 地域生活圏の形成に当たっては、金融機関が参画することもポイント。
- ✓ 人をひきつけている地域では、地域固有の魅力や文化が重要な要素となっており、これらを可視化するような仕組みが重要。
- ✓ 生活サービス維持の観点と併せて、環境の持続可能性についても留意する必要がある。
- ✓ 現状の課題の解決に向けてどうしたらよいのかという現状ベースではなく、地域をどのように未来を作っていくのかという視点でビジョンを作り、未来を見据えた地域づくりが必要ではないか。
- ✓ 地域の自発的な動き（自助・共助）に対して、政府がそれらの活動を支える枠組みを構築し、地域ごとの試みを持続可能なものとするのが重要。
- ✓ 若者が機会を求めて都心部へ出ることは自然な流れだが、若者がUターンを希望する際に地方で暮らせるよう、地域と若者の継続的なつながりを構築することが重要。
- ✓ 地方部の医師不足を、オンラインの活用等で支えるモデルを広めていく必要がある。

## ■ 第三次国土形成計画の推進（国土構造の基本構想）について

### 【生活圏について】

#### ■ 二地域居住の促進について

- ✓ 総務省が進めている「ふるさと住民登録制度」がうまく機能すれば、良い取組になる。
- ✓ 免許返納や公共交通の消失により医療機関へ通えなくなると、住み続けたくても住み慣れた地域を離れざるを得ない。二地域居住を論じるに当たって、医療・福祉、介護等のサービスの充足度は重要であり、二地域居住を阻む要素にどのような要素があるか、**実態を把握するのが良いのではない**か。
- ✓ 二地域居住に当たっては、移住先で倒れるリスクの不安を解消する必要があり、医療情報をリアルタイムで共有する医療DXを実現する必要があるのではないか。
- ✓ テレワークの導入状況ははコロナ禍から戻っている傾向があるが、企業としての組織マネジメントと、個人の労働生産性の向上をうまく両立させ、推進していきたい。
- ✓ 若者が機会を求めて都心部へ出ることは自然な流れだが、若者がUターンを希望する際に地方で暮らせるよう、**地域と若者の継続的なつながり**を構築することが重要。